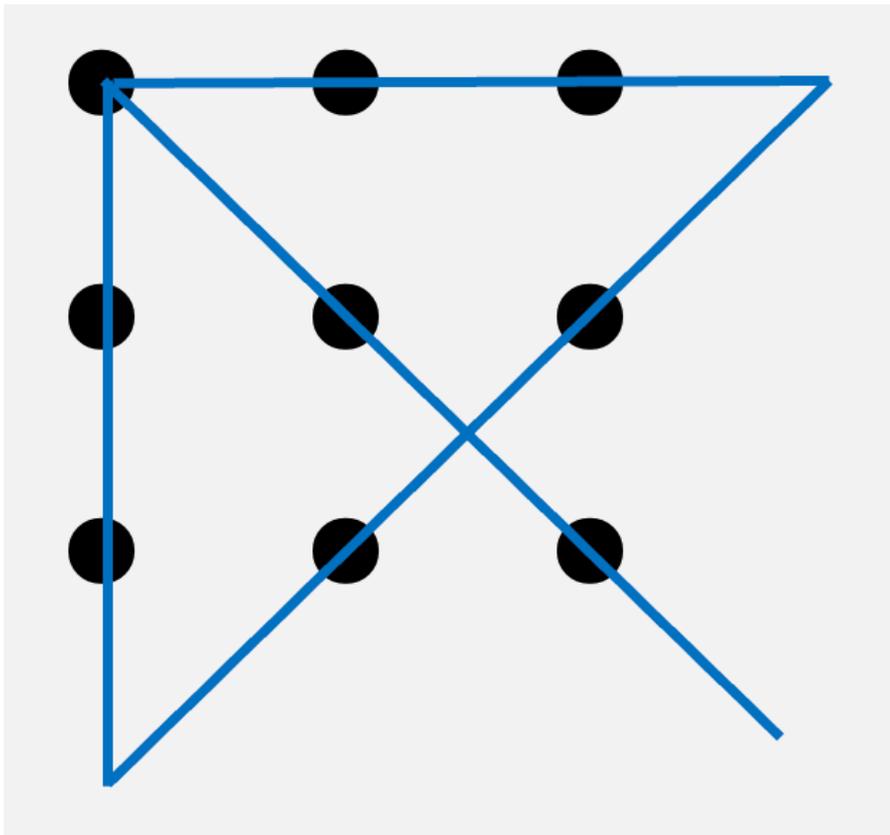


ティーチング・ポートフォリオ



第31回 佐賀大学 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ
2023年9月13日(水)～15日(金)

佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター
石井 宏祐
ishiiedu@cc.saga-u.ac.jp

内容

1. 教育の責任.....	1
2. 教育の理念.....	4
3. 教育の方法.....	5
4. 教育の成果・評価.....	7
5. 今後の目標.....	10
5.1. 短期目標.....	10
5.2. 長期目標.....	10
6. 添付資料.....	10

◆表紙図は9点連結問題の解答

9点連結問題は、心理学の分野で人間の思考のかたさを実感させるためによく用いられる問題である。

教示文は次の通り。「図のように、3行3列の等間隔に並んだ9個の点がある。これらの点を直線による一筆書きで、かつ曲がる回数は3回以内で、すべての点を結ぶにはどうすればよいか。(ただし同じ点は何回通ってもよい。)」

私たちはこのような問題が極めて苦手である。9点からなる枠組みを自然に作ってしまい、そこからはみだして考えることが難しい。

教育の理念である「他者を肯定的にとらえ支えることができる学生の育成」を実現するためには、自らの他者理解の枠組みを学生自身に気づかせ、そこから一歩踏み出して新しいものの見方や考え方を身に着けていけるように教育していかなければならない。

枠組みをはみ出すことを求める教育理念の厳しさを、私自身が忘れないよう、難しさを象徴的に示すものとして、今回9点連結問題の解答を、表紙図として採用した。

1. 教育の責任

佐賀大学に赴任して6年半経った。佐賀大学教育学部の学生を対象に現在14科目を担当している【添付資料①】。必修科目が7科目、選択科目も7科目である。心理学、特に臨床心理学を専門にしているため、カウンセリングに関する科目や心理学関連科目を主に担当している。また教育学関連科目においても臨床心理学の観点からオムニバスの担当をしている。

1. 1. 担当科目

1) 必修科目（全回担当）

科目名 科目コード	対象・学 年・学期	種別・特 徴・形式	開講 年度	受講 者数	説明
教育相談 C0425100	学部 2年 後期	必修 専門 講義	2017 年度 ～現在	およそ 130 名	教育相談の意義と役割について概説し、支援対象や実際の支援方法について解説する。学校現場での心理臨床実践をふまえ、多職種連携等についても具体的に深めていく。
幼小連携教育 演習 C0105000	学部 3年 後期	必修 専門 演習	2020 年度 ～現在	3名～ 5名	幼小連携教育における課題や今後解決すべき問題を学生自らが設定し、次年度の卒業研究につなげることを目指している。
教育実践フ ィールド演習I C0301000	学部 1年 前期	必修 専門 演習	2017 年度 ～現在	およそ 15名	集中講義。小学校に3日間参与観察および振り返りの時間を取る。報告レポートを書き、発表する。教員養成課程の学生の初年次教育として位置付けられている。
教職実践演習 C0432000	学部 4年 後期	必修 専門 演習	2017 年度 ～現在	およそ 12名	教職課程の授業等を通じて修得した資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として統合されたかについて、最終的に確認することを目的とする。

2) 必修科目（オムニバス担当）

科目名 科目コード	対象・学 年・学期	種別・特 徴・形式	開講 年度	受講 者数	説明
生徒・進路指導 論 C0426100	学部 3年 前期	必修 専門 講義	2017 年度 ～現在	およそ 130 名	生徒指導や進路指導に関する諸問題について様々な立場からの多面的な理解を学び、基本的な対応の検討を行う。オムニバス科目であり、生徒指導の内容を中心に12コマ担当している。
幼小連携教育 論 C0103000	学部 2年 後期	必修 専門 講義	2020 年度 ～現在	およそ 25名	幼小連携教育に関する事柄を多面的に理解することを目指している。オムニバス科目であり2コマ担当し、愛着と自己愛の発達について心理学の観点から解説する。
幼小連携教育 研究法 C0104000	学部 3年 前期	必修 専門 講義	2020 年度 ～現在	およそ 15名	幼小連携教育に関する課題を多面的に理解するためのさまざまな研究方法を学ぶ。オムニバスで2コマ担当し、心理学的研究方法について解説している。

3) 選択科目 (全回担当)

科目名 科目コード	対象・学 年・学期	種別・特 徴・形式	開講 年度	受講 者数	説明
心理学実験Ⅰ C0516000	学部 1年 後期	選択 専門 実験	2020 年度 ～現在	1,2名	心理学の基礎的実験を体験するとともに、心理学論文の手法に従って、問題、目的、方法、結果、考察のまとめ方を学ぶ。
心理学実験Ⅱ C0517000	学部 3年 後期	選択 専門 実験	2020 年度 ～現在	1,2名	先行研究を精読することによって、心理学論文の構成を知り、書き方を学ぶ。また、データ収集法とデータの統計的分析法も学ぶ。
心理学概論 C0515000	学部 1年 後期	選択 専門 講義	2018 年度 ～現在	およそ 20名	心理学は心の科学である。心を科学的に学問するとはどういうことなのか。本講義では心理学の主要な領域について、重要な研究成果をとりあげながら解説する。
臨床心理学概 論	学部 2年 前期	選択 専門 講義	2017 年度 ～現在	およそ 20名	心の援助学として臨床心理学をとらえた場合、四本柱として臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理的地域援助、臨床心理学研究が挙げられる。それぞれについて概説する。
家族心理学 C0520000	学部 3年 前期	選択 専門 講義	2018 年度 ～現在	およそ 20名	家族の切り口は、社会学、歴史学、法学など、様々ある。しかし家族心理学は心理学によって家族を理解しようとする。本講義では家族心理学の展開や成果について概観する。
心の病と癒し のプロセス G1332012	全学 1年 後期	選択 教養 講義	2017 年度 ～現在	およそ 50名	心の病や心の問題について、共感的な理解を促すため、できる限り具体的に解説していく。個人が特定されないようデフォルメされた典型的な事例などを具体例として採り上げる。
子どもの支援 Ⅰ C0536000	学部 1年 通年	選択 専門 講義 演習 実習	2017 年度 ～現在	2名～ 12名	幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許状や将来保育士資格の取得を目指す学生が、発達障害児を理解し、基本的な支援法を身につけることを目的とする。「講義・グループワーク」と臨床現場の支援活動に参加する「支援実習Ⅰ」の2つで構成される。

4) 他大学で担当科目

科目名 科目コード	対象・学 年・学期	種別・特 徴・形式	開講 年度	受講 者数	説明
産業・労働分野 に関する理論 と支援の展開	大学院 修士課 程1年 集中	選択 専門 講義	2018 年度 ～現在	5名～ 10名	鹿児島純心大学(旧鹿児島純心女子大学)大学院人間科学研究科の公認心理師養成関連科目。職場や労働上で生じる心理的問題への必要な支援に関する理論と技法を修得できるよう、講義と討論とロールプレイで展開していく。

5) 卒業研究

幼小連携教育コース幼小発達教育専攻の学生を中心に、例年3名～7名の学部4年生のゼミを担当し、心理学的手法に基づいた卒業論文の執筆指導を行っている。

教育学部の他コース他専攻の学生で、特に心理学的な卒論執筆を希望する学生については、所属専攻の教員と協議の上、受け入れることがあり、2021年度、2022年度、2023年度には、それぞれ1名ずつ指導した。

ゼミは、原則週1回1コマ確保し、学生の進捗状況を確認し、次回までに取り組むべき課題を学生本人と話し合っ決定する。また、週1のゼミの他にも学生の要望に応じて、適宜個別対応も行う。なお、個別対応を行う際には、臨時ゼミと位置づけ、他の学生にとっても学習の機会にできるように、日時を周知するようにしている。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
幼小発達教育専攻		7	6	4	3	2
教育心理学専修	4					
他コース他専攻				1	1	1
合計	4	7	6	5	4	3

1. 2. 科目以外の教育活動

1) 修士論文指導

放送大学大学院臨床心理学プログラムの修士論文指導を2019年度から2021年度にかけて担当した。佐賀在住の2名を対象に臨床心理学論文の執筆指導を行った。

2) 臨床心理士等へのスーパーヴィジョン

12名の臨床心理士（公認心理師含む）の依頼を受け、スーパーヴィジョンを行っている。教育、医療、福祉、産業における家族療法の在り方について助言している。

3) 相談業務従事者を対象とした研修

- ①日本ブリーフセラピー協会の福岡支部長を担当し、年間4回、研修会を主催している。短期療法についてロールプレイを通して体験的に学べるようにしている。
- ②インタラクショナル・ビュウ研究会を主催し、参加者が関心のある家族療法、短期療法の文献の読書会を行っている。

4) 学生指導

幼小発達教育専攻の学生チューター（教職チューター）を担当し、学生生活のサポートを行っている。

5) 高校への出前講義（ジョイントセミナー）

幼小発達教育専攻を代表し担当した。2017年度に佐賀北高校と三養基高校、2019年度に白石高校、2021年度の小城高校、2022年度に長崎西陵高校でそれぞれ1回ずつ、「幼小発達教育のためのカウンセリング心理学」と題し60分の講義を行った。

6) 中学校への出前講義

佐賀大学教育学部附属中学校の企画である「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」の担当を2022年度と2023年度に1回ずつ60分の講義をおこなった。演題を「聴き方と訊き方の心理学」とした。

2. 教育の理念 —他者を肯定的にとらえ支えることができる学生の育成

臨床心理学を専門とする教員として、学生には、生きづらさや困難を感じている人々への適切な支援の在り方について学び、それを実践するための基礎を身につけることができるようになってほしいと考えている。

私は23年間、臨床心理士や公認心理師として、教育・医療・保健・福祉・産業の分野で心理臨床を行ってきた。その過程で、心の病を抱えていたり障害があったりして生きづらさを抱えている人や、その人々を支えようと奮闘する家族や支援者が、周囲の人からの無理解や否定的な態度などによって苦悩をさらに深めていく場面に多く立ち会ってきた。しかし、理解されなかったり否定されたりして孤独な状況にある人は、肯定的に受け止められることによって、生きづらさや困難を軽くしていく取り組みをしやすくなったり、生きづらさや困難があったとしてもよりよく過ごしていくということに目を向けやすくなったりすることが少なくない。

学生が、苦悩のさなかにいる他者を否定的にとらえたり避けたりすることなく、肯定的に受け止め支援し、さらに支援の輪を拡げられれば、より生きやすい社会の発展に貢献できるようになる。そのためには大学4年間を通して、**自分と異なる他者を理解し受け容れる態度と、その態度を周囲へ拡げ連携する技術**を身につける必要がある。

なお、これらの態度や技術は、苦悩のさなかにいる他者に対してだけではなく、苦悩の有無や多寡に関わらず、多様性の時代を生きていく大学生にとって、必要だと考えられる。多様性をより豊かに享受できる社会の創造に貢献することができるだろう。

<教育目的1>自分と異なる他者を理解し受け容れる態度を培う

自分と異なる行動や考え方や感じ方をする他者に対しては、その違いが大きいほど抵抗感を覚え、距離をとったり関与を避けたりしてしまうことは自然なことである。しかし自然なことであるために抵抗を覚える自分自身の相手への拒絶的な態度に意識が向きにくくなってしまふ。無自覚な拒絶的態度が他者を傷つけてしまふ。

大学教育でできることは、まず学生が自分の自然な抵抗感に気づくことができるようにすることである。また、相手を理解するための知識も獲得させなければならない。この知識は、他者の状態に関する心理的機序や医学的診断といったものである。さらに知識をそのまま個々の他者に当てはめるのではなく、他者の固有の行動や考え方や感じ方を理解するためには、共感的に耳を傾ける「聴く力」も身につけさせる必要がある。

<教育目的2>他者を理解し受け容れる態度を周囲へ拡げ連携する技術を培う

自分だけでなく、周囲の人々もまた、違う行動や考え方や感じ方をする他者に対して抵抗感を覚えることを分かっておく必要がある。その抵抗も自然なこととして否定せず、その上で他者の苦悩に目を向けることができるようにながすためには、他者への肯定

的な見方を周囲に押し付けずに丁寧に紹介するといったような、適切な「伝え方」を身につけさせる必要がある。

<特に教員志望の学生に求めること>

教育学部は教員養成学部のため、ほとんどの学生は幼・小・中・高・特別支援学校いずれかの教員を目指している。それぞれが理想の教師像を胸に秘めているが、入学当初から生徒指導や教育相談、特に保護者支援をしている自分を思い描いている学生は極めて少ない。また教員同士で心理的負担に気づき、支え合っていくという意識も低い。ただでさえ多忙と聞く教員が、心理的支援までも担うことを知ったとき、不安で自信をなくす学生も多い。実際は一人で抱え込むのではなく、学内外で適切に連携していくことになるが、その際にも対象となる児童生徒や保護者に対して、あるいは困ったり負担を感じていたりする教員に対して、「理解し受け容れる態度」と「その態度を周囲へ拡げ連携する技術」があることは不可欠である。教育の専門家である教師は、対象となる人々との関わりを避けるわけにはいかない。理解し受け容れ、その態度を拡げて、例えば、クラス運営等していかなければならない。そのため教職志望の学生には特に、教員のエッセンススキルとして「態度」と「技術」を身につけてほしいと考えている。

3. 教育の方法

3. 1. 言葉の選び方

○教育目的1「他者を理解し受け容れる態度を培う」方法

教育相談やカウンセリングに関わる科目では、他者理解のイメージを学生がもてるように、具体的な事例を紹介している。なお事例は、守秘義務があるため、来談者から紹介の許可を得ているものを、個人が特定されないよう適宜内容を改変して紹介している。事例を紹介する際は、できる限り来談者が用いた言葉をそのまま用いるようにしている。来談者が自らの「万引き」を「盗ってしまうこと」と表現する意味や、児童が被害にあっている「いじめ」を「いやがらせ」と表現する意味について学生たちに考えさせ、言葉のニュアンスに注意を払うことの大切さを教えている【添付資料②】。他者の言葉の尊重は、自分と異なる他者を理解し受け容れる態度の基礎となる。

○教育目的2「他者を理解し受け容れる態度を周囲へ拡げ連携する技術を培う」方法

受講生は、心の病や発達面の障害のある当事者や家族であることもある。学問としては心の病や発達面の障害を対象化し、理論的に説明することも必要であるが、担当科目では当事者や家族が傷つかない表現やエンパワメントする表現の仕方を専ら採用している。一般に用いられる用語であっても、受講生の心の負担にならないように、例えば自殺を自死と言うなど配慮している。

また、授業中に使用する言葉は、極端な言い方は避け、多少冗長であったとしても、

丁寧な表現を選択している。

授業担当教員によって授業とは、他者を理解し受け容れる態度を周囲へ拡げ連携する技術を示す場でもある。他者を否定しない表現の実践例となるよう、心がけている。

3. 2. 資料の作成

○教育目的2「他者を理解し受け容れる態度を周囲へ拡げ連携する技術を培う」方法

ほぼすべての授業の資料をパワーポイントを用いて作成しており、学生の視覚的負担を減らすため、スライドの背景を薄いグレーにしてUDフォントを使っている【添付資料③】。コロナ禍では特にオンラインでの受講が増えたため、すべての資料に反映した。

心身の負担を配慮することは、受講者への直接的な配慮という側面だけでなく、伝え方の例を示す意味でも徹底している。

3. 3. 小レポートのフィードバック

講義科目「生徒・進路指導論」「教育相談」「心の病と癒しのプロセス」では、毎回Webシステムを用いた小レポートを課している。「生徒・進路指導論」と「教育相談」では130名ほどの受講者がいるため20通程度、「心の病と癒しのプロセス」では50名ほどの受講者がいるため10通程度をピックアップし、個人が特定されるおそれのある情報を除き、次の回の講義でスクリーンに示し【添付資料④】、解説している。毎回新しい内容に入る前に30分ほど時間をかけており、前回の60分と次の回の30分でひとつの単元となるように授業を進めている。

○教育目的1「他者を理解し受け容れる態度を培う」方法

小レポートのフィードバックを行うことで、単に講義を聞くだけではなく、他の学生の意見からも刺激を受けることができるようにしている。一問一答で説明できるもの以外は、多様な解釈のひとつとして伝えるようにし、個々に新たな課題が生成され、内的対話が促されるように心がけている。

自分とは異なる多様な意見や考え方に触れることによって、自分と異なる他者を理解し受け容れる態度が育成される。

○教育目的2「他者を理解し受け容れる態度を周囲へ拡げ連携する技術を培う」方法

自分自身の考え方・感じ方を尊重できるように、さらにはそれとはまったく異なる他者の考え方・感じ方がありうることに気づき、それを尊重しようとすることができるように、多様な在り方を肯定するコメントを心がけている。

どのように多様な在り方を肯定するのか、学生は学ぶことができる。

3. 4. ランチミーティングによる実習指導

「子どもの支援I」は通年科目であり、学内外の施設で支援実習を行う。支援実習とその事前指導としての集中講義、事後指導としての集中講義からなる。そのため、支援

実習中の指導が授業計画に含まれていない。そこで、2ヶ月に1回程度、昼休みの時間を使い、ランチミーティングを行っている。受講生は昼食を持参し、前回のランチミーティング以降に経験した実習内容を振り返り、互いに経験を共有し、参考にしあっている。受講生の発表に対してコメントを行い、困りごとについても助言を行っている。

○教育目的1「他者を理解し受け容れる態度を培う」方法

実習先は発達障害児施設や発達障害者施設であり、受講生はどのように関わればいいのか、理解すればいいかに戸惑うことが多い。そのため、どのように理解すればいいのかについての専門知識を提示し、それを手がかりに個々の対象児者をいかに理解しようとするのか話し合い、関わり方まで検討するようにしている。

3. 5. 復習の補助

ほぼすべての担当科目を録画し、オンデマンド化【添付資料⑤】している。復習したい学生や感染症による欠席者が自由に視聴できるようにしている。

○教育目的2「他者を理解し受け容れる態度を周囲へ広げ連携する技術を培う」方法

学生個々の特性や能力差によっては、視覚的聴覚的な復習の支援が有効な場合がある。多様な学生の在りようを肯定し、相応の支援をすることは、肯定的な支援の輪を広げる一例となる。

3. 6. 特別な配慮

評価に関し、特別な配慮を要する学生には、必ず相応の配慮をしている。なお、学生本人からの申し出のみで判断せず、医療機関の診断書や学生支援室からの情報などを、学生の手承のもとで提供させるようにしている。

特別な配慮を要すると判断できない場合には、他の受講生や過去の受講生との不平等が生じないように、例外を認めないことにしている。講義中にも周知している。

○教育目的2「他者を理解・受容れる態度を周囲へ広げ連携する技術を培う」方法

他者を理解し受け容れる態度を周囲へ広げることと、相手の事情をふまえずにすべての要望に応えることはイコールではない。必要な支援を必要な時と場合に行うことを講義で徹底することで、相手理解をふまえない不適切な支援をしてしまうおそれを学生は避けることができるようになる。

4. 教育の成果・評価

4. 1. 授業評価

教育の評価指標として、まず学生による授業評価アンケートを用いる。中でも、「この授業の学習到達目標を達成できましたか。」(学習達成度：教育方法の妥当性の総合評価として)、「理解しやすいように教え方や教材の工夫がされていきましたか。」(教え方の

工夫：＜教育目的2＞に関わるモデルとなる伝え方の指標として)、「課題等の提出物に対して適切なフィードバックや解説がありましたか。」(フィードバック：＜教育目的1＞に関わる多様な他者理解の学びの指標として)、「この授業は全体として満足できるものでしたか。」(満足度：教育方法の妥当性の総合評価として、また＜教育目的2＞に関わるモデルとなる伝え方の指標として)の4項目について、過去2年間のデータを大学全体の平均と比較する。対象科目は、アンケート回答数が多く、教育学部の学生にとって必修科目であり、カウンセリングの内容も講義内容に含めることを文部科学省からも求められている講義科目「教育相談」とする【添付資料⑥】。

上：石井 下：大学全体平均	令和3年度	令和4年度
学習達成度 (教育方法の妥当性に関する総合的指標)	4.16 4.00	4.22 4.07
教え方の工夫 (教育目的2に関わる指標)	4.24 4.13	4.44 4.16
フィードバック (教育目的1及び2に関わる指標)	4.58 4.03	4.61 4.09
満足度 (教育方法の妥当性に関する総合的指標)	4.56 4.23	4.37 4.26

アンケートは5件法であり、全くそう思わない(1)、そう思わない(2)、どちらともいえない(3)、そう思う(4)、全くその通りだと思う(5)から学生は選択するため、平均4を超えていれば評価は高いと考えてよいだろう。

結果をみると全てにおいて平均4を超えていて、大学全体平均よりも高い評価を得ていることが分かる。特に力を入れてきたフィードバックが高い評価を得ていることは、教育目的1及び教育目的2に対する取り組みの一定の成果を示すものといえよう。

4. 2. 指導した学生の臨床心理士養成大学院進学実績

私の心理学ゼミでは、所属専攻(幼小発達教育専攻)からだけでなく、心理支援職(臨床心理士)を目指す学生であれば他コース他専攻からも、ゼミ生を受け入れている。臨床心理士を目指す学生は大学院進学が必須であるため、進学指導も行ってきた。これまで5名の進学希望者がおり、3名が進学している。1名はこれから受験するため、4名中3名、75%の進学率である【添付資料⑦】。

4. 3. 指導学生の卒業論文に関する特筆すべき成果

平成30年度卒業生が、卒業論文をブラッシュアップし、令和2年の日本ブリーフセ

ラピー協会第 12 回学術会議にて口頭発表を行った【添付資料⑧】。テキストチャットにおける「笑い」を意味する文字記号のコミュニケーション機能について実験を通して明らかにしたものであった。他者理解につながる点で<教育目的 1>に関わる研究であり、また文字記号の使用に関する示唆を得た点で<教育目的 2>に関わる研究でもある。

4. 4. 出版テキスト 【添付資料⑨】

多様な事例を紹介するテキストを分担執筆した。<教育目的 1>に関わる成果である。

1) 発達障害のライフデザイン支援 [事例編]

石井宏祐 (担当:分担執筆) 文部科学省 2016 年 3 月

2) 事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 中学校・高等学校編 第 3 版

石井宏祐 (担当:分担執筆) 遠見書房 2019 年 10 月 (ISBN: 9784866160986)

3) 事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 小学校編 改訂版

石井宏祐(担当:分担執筆) 遠見書房 2019 年 10 月 (ISBN: 9784866160979)

4. 5. 教育関連研究業績 【添付資料⑩】

(<教育目的 1>に関わる成果であり、事例を紹介するもの)

1) ブリーフコーチング—子どものリソースに目を向ける

石井宏祐 児童心理 63(1) 41-45 2009 年 1 月

2) 人間関係の発達に伴い食行動のこだわりがみられた幼児

石井宏祐, 武藤亜佐子 佐賀大学教育実践研究 (39) 131-135 2021 年 3 月

3) 自分らしく遊ぶようになるまでに段階をふんだ幼児

武藤 亜佐子, 石井 宏祐 佐賀大学教育実践研究 (40) 37-44 2022 年 2 月

4) 幼稚園で安心感を持って過ごすようになるまでに時間を要した幼児の「遊びの探究」 に向けての支援

武藤亜佐子, 石井宏祐 佐賀大学教育実践研究 (41) 77-86 2023 年 2 月

(<教育目的 2>に関わる成果であり、多職種連携のポイントにふれたもの)

5) 対人援助における脱嗜癖的アプローチ

石井宏祐 鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要 (10) 75-90 2015 年 3 月

6) 発達障害と子ども発達支援士の養成：大学コンソーシアム佐賀の取り組み

園田 貴章, 田中 麻里, 水田 茂久, 石井 宏祐, 鬼塚 良太郎, 川邊 浩史
久留米大学教職課程年報 (4) 2-11 2020 年 3 月 31 日

7) コンサルテーションにダブル・ディスクリプション・モデルを活かす

石井宏祐 Interactional mind 13 (13) 30-37 2020 年 12 月

(その他、生徒・進路指導論に直接関わるもの)

8) 初等・中等教育におけるキャリア教育と進路指導

若本純子, 石井宏祐 佐賀大学教育学部研究論文集 2(1) 237-246 2017 年 8 月

5. 今後の目標

5. 1. 短期目標

1) 学習達成度のさらなる向上

すでに学習達成度は4を超えているが、教育の理念を周知徹底することで、学生はさらに明確に到達目標を理解でき、達成に向けたビジョンが描きやすくなり、学習達成度は一層向上すると考えられる。これからの授業では、教育の理念を丁寧に説明していく。

2) 特別な配慮の周知方法

特別な配慮について、現在厳格に実施しているところであるが、授業内に口頭でのみ説明してきた。資料に文章で示すことで、聴覚情報のみではなく視覚的にも伝えることができる。学生の多様な知覚傾向をふまえて、今後は資料に明確に示すことにする。

5. 2. 長期目標

1) 学内実習の整備

教育実践総合センターの教育臨床部門を担当する教員として、支援を必要とする子どもと学生が実際に関わることのできる機会を新たに作りたい。現在、附属小学校の協力を得て着手し始めている計画があるので、これを軌道にのせていく。

2) テキストの作成

教育学部の学生は、「教育相談」が必修科目である。教育相談にはカウンセリングの理論と方法の習得が含まれる。教育相談事例を豊富に盛り込んだカウンセリングのテキストを作成したい。

6. 添付資料

- ①科目シラバス例
- ②事例紹介の例
- ③視覚的な配慮を施したスライド資料例
- ④小レポートのフィードバック資料例
- ⑤授業のオンデマンド化の例
- ⑥学生による授業評価アンケート結果
- ⑦指導した学生の臨床心理士養成大学院進学実績
- ⑧指導した学生の研究発表
- ⑨出版テキスト
- ⑩教育関連研究業績